

東山花だより

は春る

(題字は元同盟委員長 故 北村徳太郎 氏)

2015年



「雨の里山を歩き、草笛を吹く」

写真：小曾戸 恒夫

～さるのつぶやきへ

2015年、東山荘は創立100周年の年を迎えました。1915年に、全国の大学生による学生YMCAの夏季学校常設館として誕生して以来、日本のキリスト教会・関連団体を始め様々な青少年を中心とする研修育成の場として歩んでまいりました。特に、戦後20年が経過した1965年に、日本で初めて開催された世界YMCA同盟総会の会場として現本館と斎藤記念館(現1号館)が建てられ、これに伴う宿泊人数の拡大により、様々な学校・団体・企業による宿泊研修利用が行われるようになり、利用者の年代的・所属種別的・地域の空間的範囲は以前に比べて飛躍的に拡大しました。一方でYMCAの青少年育成に向けた活発な動きは、ハイY、全少研、全リ研等の熱心な指導者輩出を生み出し、東山荘も年末年始家族パーティー・ネイチャープログラムなど自主プログラムの開発強化に努めるきっかけをいただきました。

2011年3月11日の東日本大震災を契機に、被災地からの子どもたち・高齢者・ファミリーや現地活動支援者への心の癒しを中心とした中・長期キャンプなど、東山荘の自主プログラムにも社会において弱くされている方々と共に歩む方向への大きな取り組みが加わり、これに支援していただく企業・団体・個人への積極的なアプローチと、情報公開を強力に行うことがより一層求められています。

今、御殿場市を中心とする地域との協力関係により、東山荘を避難所とする協定締結を始め、耐震性にも優れた新本館の建設が必須のものとなり、国・県・市の助成を受けつつも、資金的には大変厳しい中ですがこの秋には着工し、来春には完成する計画がスタートしました。

あるいは、輝かしく華々しい100周年を迎えるのではなく、「荒野の40年」への道を踏み出す時が今であるのかも知れません。しかし、これまでの100年に東山荘で育まれた若者たちの夢と希望を強く受け継ぎ、次の若者たちを育てて行くために、今こそ、あなたの強いお気持ちとお支えとが必要とされていることを申し上げたいのであります。

主の大きな恵みを信じつつ、祈りの内に強く共に歩みたいと思います。

せきよう
夕陽の風

15

東山荘所長
大和田 浩二

発行人・大和田 浩二 発行所・YMCA東山荘 四二・〇〇二四 静岡県御殿場市東山一〇五二 電話 〇五五〇(八三)一一三三 ファックス 〇五五〇(八三)一一三八

主催プログラム ごあんない

●拡大版・春のこども自然キャンプ●
日時 5月2日(土)～6日(水) 4泊5日
対象 小学1年生～6年生の男女
参加費 23,000円
内容 通常は1泊2日ですが今回は何と4泊5日!「富士山中腹・雪遊びの旅」や「満月の夜の富士山探検」、「海・湖・川の探検隊」など、お楽しみ特盛の5日間です。さるボードもお楽しみに!
(担当 白鳥)



表紙写真／小曾戸恒夫(富士山先生)
つぶやき／プログラム主任 白鳥 裕之



ところが近年、例えば草笛にしても「知ってる!」と言うばかりで、実際にやろうとしない子が少しずつ増えていきます。おそらく、その子にとっての興味は、知っているか、いないかだけなのです。

情報や知識ばかりが偏重されがちな今、いかに「本物に触れる生きた体験」を重ねてゆくことができるか、がより大切になってくると思います。

自然が冬の長い眠りから目覚める春、その生命のきらめきに魅せられて、私たちも自然に触れる機会が増えます。そして、たとえどんなに小さな、見慣れた自然であつても、大きな喜びや感動を与えてくれます。

写真は雨の里山歩きをした時の一枚です。こどもたちは行く先々で様々な発見をしては大騒ぎ。不思議なものは穴のあくほど観察し、食べられるものは口に、遊べそうなものはおもちゃにする。一人が草笛を始めると、瞬時に人だかりができ、草笛道場が始まる…。こんなささやかな自然体験が案外一生の思い出になったりするのです。

さるのつぶやき

さるリーダーのつれづれ話

from the Secret Garden

東山荘の春といえば本館玄関前のハクモクレンを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

10cm程もある純白の花で着飾った大きな木は、圧巻の眺めで毎春のお客様をお迎えしていました。

背の高い木々がのびのびと育っていた前庭ですが、3月これらの木々は半分位になりました。

新本館建設予定地となったため、これから先も長く生き続けてくれるよう移植する前処置が施されたのです。

何年後かの春、再びたわわに花を咲かせ、また皆さんを出迎えてくれることを心から願っています。

皆さんの応援をお願いします。



写真「東山荘だより2001年春号」表紙より

編集後記

春の訪れはいつも、出会いと別れを伴っています。進級や進学、就職等で新しい環境に飛び込んでいく人、暮らしそのものが大きく変わる人たちも多い季節でしょう。新しい春が、温かい交わりと実りある日々でありますよう心からお祈りします。庭木の大変身から始まった100年目の東山荘の春も、これからの新しい日々に向かっていきます。

ご宿泊・研修・会議 お申し込み・お問い合わせ

資料のご請求は…

日本YMCA同盟 東山荘
〒412-0024 静岡県御殿場市東山1052
TEL 0550-83-1133
FAX 0550-83-1138
E-mail: tozanso@ymcajapan.org
HP http://www.ymcajapan.org/tozanso/



さるボードで5人トレイン。冬と一心同体です。
(冬のこども自然キャンプ)

季節の一品 ～厨房だより～

人参とお米のスープ



●材料(4人分)

人参 1本
玉葱 1/2個
米 30g
ブイヨ(顆粒Ok) 400g
牛乳 100cc
バター 20g
塩・胡椒 適量
クルトン 〃
生クリーム 〃

●作り方

- ①人参、玉葱を薄切りにしてバターで焦がさないようにじっくり炒める。
- ②米を加えて軽く炒め、ブイヨンと牛乳を入れて煮込む
- ③米に火が通ったらミキサーで攪拌し、裏ごしする。
- ④鍋に移して火にかけ、塩・胡椒して味を調える。
- ⑤器に盛り、生クリームを流し、クルトンを添える。



ルーではなくお米をつなぎにしたスープです。

おたより・声・メッセージ

ことし創立100周年を迎える東山荘。過去の「東山荘だより」に寄せられた原稿や、お声、そして現在の特刊プログラム参加者の方からのお手紙を読み返すと、いつの時代も変わらない東山荘への期待やメッセージが伝わってきます。

これまで100年間大切にしてきた、そしてこれからもずっと大切にしていこう東山荘スピリットとは何か…。

一部を抜粋してご紹介します。

東山荘での集いが共通に目指すべき点また、集いの結果として残る収穫として考えられることは、「本当の人間と人間との出合がおこる」と「真の人間関係が経験される」とである。

雄大な自然の中に地位し、東山荘には、全ては神のみ手にあたえられているという「安心」からもたらされる、ゆとり、ゆるみといったものが溢れて人をうるおすようになりたい。（宮本武之助氏／元東京女子大学学長・元東山荘プログラム委員会委員長 東山荘だより1971年6月）

東山荘を日本のエデンの園たらしめたい。世界の真の人材の集る所、人と人とが神の祝福をうけて対話する所であるためにはこの場所の自然をよく保護して守って行くことが東山荘の整備と共に堅持すべき基本の考え方であらねばならない。（出口一重氏／元東山荘委員 東山荘だより1971年9月）

古い建物に新しい建物がつてかわっただけならば、あまり意味がない。しかし東山荘が建てられた本来の趣旨は何か。それは日本の指導者の養成の場である。現代的に言えば、日本のあらゆる分野の前線であつた青年たちが、国際的な視野をもつて次の世界市民として立つための研修の場所であるといえる。（大和久泰太郎氏／元日本YMCA同盟総主事 東山荘だより1972年10月）

過去、多くの人が語り、書いてきた通り、東山荘は単なる研修施設ではない。人と出合い、自然と出合い、究極的には神さまと出会う「出会うところ」としてのスピリットを継承してほしい。（本行孝司氏／元東山荘所長 東山荘だより2013年冬号）



ほら！あそこにムササビがいるよ！
（第49回年末年始家族パーティー）

「富士山や自然を見る時に、私は白鳥さんと初めてお会いした時のことをよく思い出します。」
『富士の魅力を一言で言い表すなら、やはり圧倒的な存在感です。自分がどんな状態にあつても富士山はそこに存在し続けている。自分がこの世に存在するはるか昔からそこに鎮座し続けている歴史。私はそこに揺るぎない「本物」を感じるんです。』私はうれしそうに話す白鳥さんの話を聞きながら、しかし最後に語られた「本物」という言葉になぜかドキッとさせられました。



箱根外輪山から見る2015年の初日
（第49回年末年始家族パーティー）

当たり前のように感じる自分の命も、身の周りで起こる様々な事象も、そしてこの世界に広がる雄大な自然も含めて、全てが御手の中にあることが神の声によって宣言されます。そして、悪魔の揺さ振りによって多くの苦難を抱えていたヨブは、見えない「神」の存在が示された事、こんなにちっぽけな自分の抱える苦しみをも神は見逃すことはない、たとえ自分が暗闇の中を一人で歩んでいるように感じていたとしても、神はそんな自分を根底から、存在から愛し、支え、導いて下さっていることを知り、これまでの苦悩を超えた喜びと癒しを心に抱くのです。

多くの試練の中で神への信仰を捨てなかった義人ヨブ、彼の生き方が喜びの伝説としてイスラエルに語り継がれ、様々な困難を抱えた人々の希望となつたように、この東山荘に集う私たちも、目前に広がる雄大な自然や一人ひとりに与えられた命を通して、それらを司る神の存在を覚えながら、共に歩みを進めていきたいと願います。

それこそが、この混沌として、多くの矛盾と痛み、そして偽物を抱えた世の中にあつて、希望の光、神の真理の輝き灯らせる事に繋がるのではないのでしょうか？

最後に、掲示されている写真やスライドに写されている輝かしい子供たちの表情を見ていると、100周年を迎えるこの東山荘の背負っている意味の大きさ、使命の重要性を強く感じます。ここにつながる私たち一人一人の、この一年の働きの上にも神の導きと祝福が豊かにあることを心から願っています。」（野間光頭氏／敬和学園高等学校聖書科教諭・第49回年末年始家族パーティー奨励より）



体も心もしなやかに
（年末年始家族パーティー）



焼マはみんな大好き
（年末年始家族パーティー）



芝生斜面で初めてのさるボード
みんないい顔しています！



（年末年始家族パーティー）



洞窟も氷窟も初めて見たよ
（年末年始家族パーティー）

（年末年始家族パーティー）

東日本大震災支援活動
東山荘の取り組み

三菱商事YMC Aフレンドシップ・キャンプ
第12回おとこリフレッシュキャンプ
2月6日～8日

初対面でも子ども達は到着するなり仲よくなつて、外で思いつき遊びました。
こどもの国では思う存分そり遊びを楽しみ、大自然の中でゆったりと過ごしました。東山荘ではキャンプファイヤーの火を囲んでゲームや歌を楽しみ、全員で感想を述べ合いました。
まだまだ大変なことがある事、その中で子どもの成長が見られてうれしいこと。何より短い時間でもリフレッシュできたことが良かった！などいろいろなお声を頂きました。

震災支援者のための
リフレッシュプログラム

第3回：10月24日～26日
第4回：2月13日～15日

支援者として活動されている方のストレス、疲弊が大きな問題になっています。被災者へのケアは社会的関心がありますが、現地で頑張るNPOや自治体等の支援団体や震災以前から社会問題に関わってきた人たちが、震災や原発事故の影響で精神的、肉体的にも限界に達しようとしています。
その支援者の方々にリフレッシュやアドバイスの場を提供するのがこのプログラム。

日頃の仕事や生活を離れ、富士山の自然や東山荘でのんびりした時間を過ごしていただきます。

必要であればカウンセラーがお相手します。今後、定着させたいプログラムを東山荘で続けていきます。



←雪のキャンプファイヤー



こどもの国で雪ぞり↓



←冬の富士山でパチリ



さるボード最高！



東京YMCA副総主事（が東山荘第10代所長専任として着任。これからどうぞよろしくお願います。

2010年4月より5年間東山荘所長・日本YMCA同盟研究所所長（兼務）を務めました大和田浩二氏は、2015年3月末をもって研究所所長専任となり、東山荘所長を退任（写真右）。4月より、堀口廣司氏（前

ありがとうございます
よろしくおねがいします

↑ Camp KIDS（こども自然キャンプメンバー）のお母さま(Kさん)からいただいたお便り。
こどもを通して、リーダーやスタッフ、東山荘としてYMCAに出会ってくださいました。

今、学校行事や、それ以外の活動に置いてても事故防止の為、色々ありますが、安全に安全に行わねばならないです。そんな中で、子供自然キャンプは富士山とバックに、それ程のダイナミックな体験とさせて頂き、しかも夜まで、子供がやりたがる、と思うであらう。すべてを事と実現し、体験させて頂くという事と、いりゆれ申し上げます。
迎え入れ、リーダーの皆様への準備と、キャンプの間の見守りは、本当に大変なことであらうと、私も感謝いたします。
富士山頂付近での暴風や、冷たい雨、暑中での長い坂、厳しい経験値の積み重ねは、彼らの中に忍耐と、そう培われていくのです。
「どんな天気も、いい天気、呪文のように、毎回教えて下さる、その事は、彼らが大人になつて、不条理に出会った時に、必ず、思い出が、おぼろげに。
夜、富士山中腹から見える街の灯、星、きらめき、いつまでも美しい思い出として残るはずです。
東山荘で、本物の自然、本物の体験、本物の大人に出会えた、子供達は、本当に幸せです。
リーダーの皆様、体力勝負の毎日、毎日、からみあられ、もお大忙しなさる、また、温かく、そして厳しく、子供達と、迎え入れて下さる、よう、お願い申し上げます。